

報告事項カ

第3回鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会及び
美術館フォーラムの概要について

第3回鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会及び美術館フォーラムの概要について、別紙のとおり報告します。

平成30年2月19日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

第3回鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会及び 美術館フォーラムの概要について

平成30年2月19日
博 物 館

第3回鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会及び美術館フォーラムを開催しましたので、その概要等について報告します。

記

1 第3回鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会

- (1) 日 時 平成30年2月9日(金) 午後1時30分から午後3時15分まで
(2) 場 所 鳥取県立博物館 会議室
(3) 出席者 鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会委員

氏 名	役 職 等	分 野	出 欠
林田 英樹	日本工芸会理事長、元文化庁長官、元国立科学博物館長、元国立新美術館長	全般	出席
水沢 勉	神奈川県立近代美術館館長、県立博物館美術品収集評価委員	美術	欠席
加藤 哲英	鳥取県美術家協会会長	文化活動	出席
池本 喜己	写真家	文化活動	出席
五島 朋子	鳥取大学地域学部教授(附属芸術文化センター)	文化活動	欠席
稲庭 彩和子	東京都美術館アート・コミュニケーション係長 学芸員	教育普及	出席
塚田 美紀	世田谷美術館学芸部企画担当主査 学芸員	教育普及	出席
高増 佳子	米子工業高等専門学校、准教授	建築関係	出席
吉村 寿博	吉村寿博建築設計事務所代表	建築関係	出席

- (4) 議 題 鳥取県立美術館整備基本計画(中間まとめ素案)について 【資料は別添】
(5) 主な意見等

《事業展開について》

- ・美術館のスタンスとして、美術館が県民に美術の価値を提供しそれを県民が受けるという県民との関係性の記述が強い印象であり、県民の知恵や活動が美術館に循環する流れが見えない。こうした展開をできるかが21世紀型の美術館としてのポイントであり、考え方が見えるようにしてほしい。
- ・鳥取県美術家協会は「社会にどう関わるか」という観点を重視し協会規約の改正までしており、県内の様々な文化団体がどのように美術館を活かして活動していけるかが重要なことである。
- ・美術館機能の根幹である収集保存にコレクションポリシー(収集方針)の見直しや県民の所蔵品の寄贈・寄託の積極的受入れが書かれているのは重要。さらに、寄贈・寄託した所有者の希望で学芸員と作品研究に関与できる環境を整えば、「県民が『つくる』」活動が見えてくるのではないかと。基本計画では「学芸員と県民がともに」とするなど、「県民との協働」の姿の工夫をしてはどうか。
- ・美術館フォーラムに来場された多くの県民が、これからの美術館を応援していただける層になる。その応援団に美術館をどのように上手く活用すれば楽しくなるかを具体的に検討してもらいたい。
- ・地元からは美術館活動に協力したいとの声を聞くが、どのように具体的な活動をすればよいのか、まだ情報が少なくはつきり分からないようである。
- ・美術館の整備とともに倉吉未来中心や倉吉市立図書館など倉吉パークスクエア全体が楽しめる場所とすることが不可欠である。そうした周辺との総合的な連携も含めた地域全体の

デザインと合わせて動いていく必要があるが、教育委員会のみでは達成できないことであり、関係部局が連携して県全体で戦略的に検討してほしい。

- ・素案は、全てを網羅している印象であるが、今後15～20年先を見据えた時に、どこまで変化に対応していけるのか懸念する。時代の変化に対応しつつ鳥取県の美術館としての情報発信をしていくための努力が必要である。

《意匠性（デザイン性）の追求について》

- ・PFI手法を導入するとどうしても月並みなものになるというのが設計の立場での認識であり、総合的な判断が必要であると常に思っており、優れたものとなるよう柔軟に議論してほしい。
- ・美術館の地域に占める位置づけはますます重要となっており、意匠性を含めた美術館らしさを大切にするという流れに逆行するとイメージダウンにつながりかねず、県政全体でそうした流れの重要性も踏まえてよく議論してほしい。

(6) 今後の対応

- ・アドバイザー委員会の助言等を踏まえた修正を行い、基本計画（中間まとめ素案）についてパブリックコメントを実施するとともに、県議会での御意見を踏まえながら、教育委員会において基本計画を策定する。

2 美術館フォーラム

(1) 日 時 平成30年2月6日（火）午後1時から午後4時まで

(2) 場 所 倉吉交流プラザ（倉吉パークスクエア内）

(3) 来場者 250人

(4) 概 要

①美術館整備の取組状況説明

②基調講演：「美術館はだれのもの？－新生・美術館へのリクエスト」 小説家 原田マハ 講演ポイント：

- ・アートは友達、美術館は友達の家。
- ・美術館は私のものであり、あなたのものであり、私たちのものである。

③パネルディスカッション「未来の鳥取と美術館」

コーディネーター：中島 諒人（鳥取県教育委員長）

パネリスト：原田 マハ

加藤 哲英（鳥取県美術家協会会長・鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会委員）

吉村 寿博（吉村寿博建築設計事務所代表・鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会委員）

根鈴 輝雄（倉吉博物館館長・鳥取ミュージアム・ネットワーク美術館等連携計画検討委員会委員）

富山 秀敏（三朝町立西小学校長・美術ラーニングセンター(仮称)検討委員会委員）

尾崎 信一郎（鳥取県立博物館副館長兼美術振興課長）

《パネルディスカッションでの主な意見》

- ・美術館は例え多くの観光客が訪れても、地元で愛されなければそこに建っている意味は無い。美術館の使い方を県民から提案してほしい。「県民が使い倒せる美術館」となればよい。
- ・隣接する国史跡・大御堂廃寺跡は山陰最大の寺院で五重塔も存在していたことから、美術館の建物に古代建築の要素を取り入れてはどうか。
- ・美術館は小学生には遠い存在であり、新しい美術館が子供たちのアートの入り口になるといい。小学4年生を全員招待し、「美術館に行ったことがあるよ」「またいつか行ってみよう」といった好循環になるとよい。
- ・美術館は地域の魅力や可能性を探る拠点となる。「美術館のある街」として街おこしをして欲しい。「点を面にすること」を考えて欲しい。
- ・総花的ではなく美術館の個性を出し、「何でこんなものをつくったの?」と言われても、「これが倉吉に建つ答えだ」と、どうせやるなら世界一流のモデルをつくって欲しい。